

## 2014 年度秋学期 授業アンケート「教員コメント」の「FD委員会総括」

FD 委員会

### <座学>

1. 授業アンケートで指摘されたことのうち、直ちに対処できることに関しては、率直に省みるコメントが多く、具体的な改善を示しています。
2. また、単にアンケートに書かれた要求をそのまま修正点とするのではなく、学生への説明を丁寧にすることによって、授業の目的を理解してもらうよう努力している旨の記述がありました。自身の授業の特質をふまえて、適切な対応を苦慮されている様子が伺えます。
3. 双方向性の授業に取り組もうとする意見が多くありました。大人数の授業でも、さまざまな工夫を取り入れて、アクティブ・ラーニング等による授業の質向上に努めています。また、その授業方法に手応えを感じているコメントが散見されます。
4. 毎回課題を出して、予習復習を促しているものがありました。授業の最初に前回授業の復習を行い、授業に連続性を持たせるように工夫しているコメントがありました。
5. 前年度との比較において授業の改善を数値で示している教員がいました。ビジュアル、配布物に工夫を凝らして、学生の関心を高めるべく配慮する意見が多々見られました。

### <演習・実習系科目>

1. 学生の演習への「取り組み意識」を改善しようとする記述が多くありました。学生の「主体性」を促すことを、演習指導では特に意識しているようです。
2. アクティブ・ラーニング、共同作業、合同合宿、ゼミ旅行などを通じて、教員とゼミ生相互の良好な関係を構築し、教育効果を高めようとする試みが積極的に行われています。
3. 就職活動とのかねあいに苦慮する記述が見られます。インターンシップが就活の一環となり、ゼミ活動に影響が出ているようです。一人一人の学生の予定が違うことや、個性、個別事情への配慮をしているコメントが目につきました。

### <語学>

1. 予習復習という言葉が教員コメントに頻繁に出ています。予習復習の充実が、語学習得に直接反映されるからでしょう。そうしたなかで、習得が遅れがちな学生と、語学力に優れた学生が分かれていく問題への対応の難しさは、語学教育に特有の問題であります。
2. 比較的多くの教員（特に初学の外国語において）が、学生の予習復習が足りないと感じています。小テストの実施などで、予習復習の促進を試みています。
3. キャリア教育や時事問題、ドキュメンタリー、映画など、学生がその言語に関心を持つように工夫をこらしています。興味を持たせるということが、語学習得につながる認識してからでしょう。
4. 授業中の出入り、私語、遅刻などが一部の授業にあるようです。改善する必要がある

ます。

#### <総括>

1. 例年の教員コメントに接して、これまで以上に教員の授業改善に取り組む姿勢が真摯であるとの印象を持ちます。コメントから垣間見えるのは、授業への熱意と、一人一人の学生に丁寧に接しようとする姿でした。
2. 学生が記述した要求と、教員の授業理念に差異が見られることもあります。要求に応えようとする気持ちと、そうした場合でも安易に要求に引きずられないようにすることの苦悩が見て取れました。授業理念や授業方針を学生に伝えることや、サイレントマジョリティの見解を推し量ることも大切でしょう。自身の授業スタイルを維持しつつ、学生の満足度を高める努力をしている様子が伺えました。
3. 例年目立つ教員コメントに、「学生が授業を難しいと感じていることへの対応」があります。各々、苦慮されている様子ですが、それは本学の教員が授業レベルを下げないように企図されている故でしょう。授業の工夫によって、「分かりやすさ」と「質の高さ」を両立させようと苦心しています。